

かきおの社協

令和3年12月1日発行 第74号 柿生地区社会福祉協議会 発行人：久保倉 清 編集人：畠山 和宏
川崎市麻生区万福寺1-2-2（新百合21ビル1階）電話：044(952)5500 FAX：044(952)1424
<http://www.kawasaki-shakyo.jp/asao/>

薬物乱用 防止教室

薬物をやったらこうなる

主催：青少年福祉委員会



会場となった体育館内の電気が消えて真っ暗になった瞬間、思わず何がおきるのだろうかと目を凝らすと、ステージに白い布を頭からまもって演技する男が現れました。そして彼は体全体を使いながら、彼自身が13歳からタバコ、シンナー、そしてマリファナに手を染めて薬物中毒になり、さらに大切な弟までも薬物中毒に巻き込んだことによって家族が味わった地獄の苦しみ、薬物依存の恐ろしさを伝えようと迫力満点の一人芝居を演じました。

これは11月1日（月）にはるひ野中学校で、3年生153名を対象に行われた薬物乱用防止教室での一人芝居です。

講師に俳優で映画監督としてもご活躍の内谷正文氏をお迎えして行われました。

薬物の誘惑に「断る勇気・逃げる勇気・恥をかく勇気」

内谷正文氏の一人芝居のあとはご本人がステージを下りて生徒たちの中に入り、お芝居の感想を聞いたり薬物に関する質問などを投げかけながら、生徒たちとの対話を通じて改めて薬物の怖さを話されました。

薬物の乱用は大変危険です、薬物の誘惑には「断る勇気」そして「逃げる勇気」が大切ですが、最も必要なのは「恥をかく勇気」です。自分のしていることや恥ずべきことなどを何でも話せて相談できる仲間や友達は勇気をくれます。

「生きていくためには人と人のつながりが大切です、なんでも話せる友達や仲間を一人でも多く作ってほしい」とエールを送りました。生徒代表からは「内谷正文さんの迫力ある一人芝居とお話から、薬物の恐ろしさが実感できました。」とお礼の言葉がおくられて薬物乱用防止教室が終了しました。



柿生地区社協会員の活動紹介

3

ふれあい いきいきサロン

代表 鷹取 順子

みんなで歌ったりお茶したり

「ふれあい いきいきサロン」は柿生地区社協 森正吉会長（現在顧問）の提案で、麻生区では最初に開催されたサロンです。

高齢化が進む麻生区で、家に籠りがちなお年寄りの皆様に楽しんでいただくとう令和2年2月まで約20年余り休むこともなく活動を続けてきました。

お年寄りが「いつでもどなたでも、気軽にふらっと参加」できるこのサロンは、月に2回第一金曜日は新百合ヶ丘コミュニティーセンター、第四金曜日は王禅寺いこいの家で実施しています。

第一金曜日の新百合ヶ丘コミュニティーセンターでは、季節の歌の合唱から始まり、落語、大正琴、コーラスを聞いたり、太極拳、輪投げ、民謡、ビンゴゲームなどを楽しみます。

暑いときにはお茶にお菓子、涼しい季節には手作りおにぎりに具沢山の味噌汁の簡単昼食です。簡単な料理ですが栄養にも考慮してお出ししています。

第四金曜日の王禅寺いこいの家では、おしゃべりしながらお茶を飲み、ピアノ演奏を聴き、そしてピアノ伴奏で楽しく歌の大合唱です。また、虹ヶ丘包括支援センターによる「高齢者なんでも相談室」では気軽に相談できて大変好評です。

誤嚥防止のためのお口の体操をしてから、スタッフが季節の食材を使った手作りのおいしい料理で楽しい昼食をします。

令和2年3月から新型コロナ禍でお休みしておりますが、沈静化しましたら再開し、皆様とおしゃべりをしたいとスタッフ一同心待ちにしております。

※この活動にご興味がある方は麻生区社会福祉協議会（Tel 044-952-5500）へお問い合わせください。

A cartoon illustration of a young girl with short, dark, wavy hair, wearing a pink and white striped shirt. She is holding a pink teddy bear with a smiling face. The background is a light pink color with a subtle pattern of small white dots.

編集後記